

令和5年度 義務年限内の自治医科大学卒業医師の要望状況【内科系総合医】

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
安来市	安来市立病院 (148床)	2	0	2	<p>安来市立病院は、改革プランに安来市における地域医療を確保していくことを掲げ病院運営を行っています。また、救急告示病院として、安来市消防本部と連携して4割近くの救急患者を受入れるとともに、市南部の中山間地域に抱える無医地区3か所のうち2か所（広瀬町奥田原・広瀬町西谷）で巡回診療を行うなど、地域医療拠点病院としても非常に重要な役割を担っています。</p> <p>こうした中、当院の常勤医は年々減少し、現在6年前との比較し7名減の11人体制となりました。特に内科系医師の減少が5名減と顕著であり、令和4年度には脳神経内科と循環器内科の常勤医が不在となり、診療に支障を来しています。</p> <p>令和3年度に総合内科医を迎え、以前より地域から強く期待されていた訪問診療、訪問看護、訪問リハビリがようやく開始できましたが、脳神経内科及び循環器内科の常勤医が不在となった本年度からは、内科医全体に大きな負荷がかかり、訪問診療のさらなる希望があっても、十分に対応できない状況が続いています。</p> <p>医師確保については、大学病院への訪問を中心に取り組んできましたが、常勤医の退職分の業務を十分に補うことができない状態の診療科も出てきており、令和4年度には民間紹介会社の有料サービスを活用も開始していますが、現時点では結果に結びついておりません。</p> <p>こういった状況の中、当院にとって幅広い知見で診療ができる総合医の確保は、通常診療はもとより在宅医療や救急医療を維持していくために非常に重要であります。</p> <p>つきましては、今後も継続した地域医療の確保を図るために、総合医を派遣いただきますよう切に要望いたします。</p>	Ⅱ	12	11
安来市	安来第一病院 (366床)	2	0	2	<p>当院は、安来地域の不足医療を解消するため、内科、精神科をはじめ乳腺外科、神経内科、呼吸器内科、循環器・消化器内科等の専門外来を含め19診療科を標榜し、急性期から慢性期までの医療・保健・介護・福祉サービスを提供しています。当院は、次の各項目について積極的に取り組んでいます。</p> <p><地域医療拠点病院として> 訪問診療による安来地域の在宅におけるがん緩和ケアを提供しています。コロナ禍においては、訪問診療件数は増加しています（訪問診療430件/令和3年10月～令和4年9月実績）。</p> <p>遠隔医療等の各種診療支援については96件（令和3年10月～令和4年9月実績）の依頼があり、地域住民への医療を確保しています。</p> <p><在宅療養後方支援病院として> 「在宅療養後方支援病院」及び「地域包括ケア病棟」の施設基準を取得しており、在宅医療を提供する地域の医療機関と連携し、緊急時の受診、入院に速やかに対応できるよう努めています。</p> <p>また診療所、急性期病院等から要請を受け、協同して在宅医療を行うとともに、在宅支援として訪問看護、訪問リハを実施しています。訪問リハは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士の3職種の訪問体制をとっており、件数が増加しています。</p>	Ⅱ	19	20

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																																																																																																																																																
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4																																																																																																																																															
安来市	安来第一病院 (366床)	前ページからの続き			<p><救急告示病院として> 当院は令和2年7月より救急告示病院の指定を受けております。地域住民の急変等地域包括ケアシステムにおける急性期治療の役割が果たせるよう鳥大病院の救急科の医師の派遣を受けながら実施しているところです。救急搬送受入れ件数は増加しています。休日夜間の受診患者数も増加しており、当院の担う役割が増えており、救急対応できる医師の確保がさらに必要となっています。</p> <p>救急搬送件数(単位 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>25</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>34</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>236</td> </tr> <tr> <td>令和3年</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>17</td> <td>35</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>27</td> <td>19</td> <td>28</td> <td>331</td> </tr> <tr> <td>令和4年</td> <td>40</td> <td>46</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>38</td> <td>35</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>193</td> </tr> </tbody> </table> <p>時間外受診者数(単位 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>22</td> <td>18</td> <td>37</td> <td>26</td> <td>12</td> <td>32</td> <td>48</td> <td>56</td> <td>36</td> <td>44</td> <td>356</td> </tr> <tr> <td>令和3年</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>52</td> <td>68</td> <td>78</td> <td>46</td> <td>49</td> <td>53</td> <td>64</td> <td>66</td> <td>60</td> <td>56</td> <td>682</td> </tr> <tr> <td>令和4年</td> <td>83</td> <td>78</td> <td>59</td> <td>63</td> <td>108</td> <td>70</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>461</td> </tr> </tbody> </table> <p><一般科入院患者数及び急性期病院からの受入れ患者数について> 安来第一病院は、島根県地域医療構想において「他区域に入院していた患者が早期に安来地域に復帰すること」を目的に40床の増床が認められ、平成30年12月に地域包括ケア病棟を新築し、その後増床分の地域包括ケア病棟を令和2年4月から稼働しております。一般科平均入院患者数については、今年度新型コロナウイルス感染症の拡大により、若干減少しておりますが、令和2年、3年は増加しております。(精神科病棟は地域移行を推進し、入院患者数は減少)。急性期病院からの転入院も増加傾向にあり、急性期病院等と連携パスや連携だよりを通じて連携強化しているところです。急性期治療後の患者様の早期受入れと地域の救急患者様の受入れを重視し、外来、病棟の受入れ体制を強化しております。 最近では、急性期病棟から入院透析の患者様の紹介が多く、受入れ増に向け、医師、透析センターと協議しているところです。</p> <p>平均入院患者数(単位 人) *令和4年度は4月～9月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般科病棟</td> <td>136.14</td> <td>150.35</td> <td>165.7</td> <td>160.91</td> </tr> <tr> <td>精神科病棟</td> <td>174.37</td> <td>168.78</td> <td>162.23</td> <td>149.73</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>310.51</td> <td>319.13</td> <td>327.93</td> <td>310.64</td> </tr> </tbody> </table> <p>急性期病院等からの一般科転入院患者数(単位 人) *令和4年度は4月～9月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般科病棟</td> <td>263</td> <td>351</td> <td>324</td> <td>361</td> <td>161</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	令和2年	10	9	15	12	25	16	9	20	34	34	26	26	236	令和3年	24	30	17	35	31	27	27	33	33	27	19	28	331	令和4年	40	46	28	6	38	35							193		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	令和2年	12	13	22	18	37	26	12	32	48	56	36	44	356	令和3年	41	49	52	68	78	46	49	53	64	66	60	56	682	令和4年	83	78	59	63	108	70							461		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	一般科病棟	136.14	150.35	165.7	160.91	精神科病棟	174.37	168.78	162.23	149.73	計	310.51	319.13	327.93	310.64		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	一般科病棟	263	351	324	361	161		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計																																																																																																																																								
令和2年	10	9	15	12	25	16	9	20	34	34	26	26	236																																																																																																																																										
令和3年	24	30	17	35	31	27	27	33	33	27	19	28	331																																																																																																																																										
令和4年	40	46	28	6	38	35							193																																																																																																																																										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計																																																																																																																																										
令和2年	12	13	22	18	37	26	12	32	48	56	36	44	356																																																																																																																																										
令和3年	41	49	52	68	78	46	49	53	64	66	60	56	682																																																																																																																																										
令和4年	83	78	59	63	108	70							461																																																																																																																																										
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度																																																																																																																																																			
一般科病棟	136.14	150.35	165.7	160.91																																																																																																																																																			
精神科病棟	174.37	168.78	162.23	149.73																																																																																																																																																			
計	310.51	319.13	327.93	310.64																																																																																																																																																			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度																																																																																																																																																		
一般科病棟	263	351	324	361	161																																																																																																																																																		

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																																												
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4																																											
安来市	安来第一病院 (366床)				<p>前ページからの続き</p> <p><認知症疾患医療センター> 島根県から指定を受け、認知症の診断や初期対応、相談等を行っています。地域の医療機関や関連する施設と連携し、症状や状態に合わせて予防や治療、入院、入所など選択・利用できるように取り組んでいます。また、地域の医療従事者向けの研修を実施し、地域で認知症の方を支える体制強化に取り組んでいます。 最近、精神症状のみならず身体疾患の治療を必要とする患者も増加しており、精神科医と一般科の医師が共同し治療にあたっております。</p> <p>認知症に関する相談件数および鑑別診断件数(単位 人) *令和4年度は4月～9月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>348</td> <td>401</td> <td>507</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>鑑別診断件数</td> <td>166</td> <td>176</td> <td>211</td> <td>108</td> </tr> </tbody> </table> <p><常勤医の高齢化> 急性期治療後の患者様の早期受け入れ、救急搬送等の地域の緊急入院の患者様の受け入れを強化しなければならない当院ではありますが、近年、医師の高齢化が顕著となっております。高齢医師の勤務日数・勤務時間の減少、病欠等が増えています(常勤医の減少につながっています)。現在、常勤医19名中60歳以上が10名と半数以上です。 大学病院からの非常勤医の派遣は増加していますが、今後、益々重要視される在宅医療を担う診療所をバックアップしつつ、病院として地域住民に医療を安定して提供するためには、常勤の内科系総合医の確保が必要です。</p> <p>常勤医の年齢構成(単位 名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>40歳代</th> <th>50歳代</th> <th>60歳代</th> <th>70歳代</th> <th>80歳代</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般科</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>精神科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> <p><安来市緩和医療及び看取りについて> 安来市内の開業医の方々から、緩和医療を必要とする患者様の訪問診療及び見取りまでを依頼される案件が増えてきています。年々増加傾向にあります訪問診療や在宅での看取りを安定して継続するためにも、常勤の総合医が早急に必要となっております。1人体制では充分でなく複数名の体制が必要になっております。</p> <p>上記に理由により、今後引き続き、安来市における地域医療構想の課題解決、地域の医療需要に応じていくためには、内科系総合医の医師派遣を強く要望いたします。ご検討頂きますようお願い致します。</p>		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	相談件数	348	401	507	263	鑑別診断件数	166	176	211	108		40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計	一般科	1	6	2	1	0	10	精神科	2	2	3	2	0	9	計	3	8	5	3	0	19			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度																																															
相談件数	348	401	507	263																																															
鑑別診断件数	166	176	211	108																																															
	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計																																													
一般科	1	6	2	1	0	10																																													
精神科	2	2	3	2	0	9																																													
計	3	8	5	3	0	19																																													

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
雲南市	平成記念病院 (115床)	1	0	1	<p>当院は雲南圏域唯一の民間総合病院として、外来・入院・透析を3本の柱として地域医療に取り組んでいます。外来患者数はこの2年、新型コロナウイルスの影響もあって減少傾向にあり、1日当たりの患者数は令和2年度が139.6人、令和3年度は135.3人となっています。</p> <p>入院患者数については、令和2年度は1日当たり95.5人と令和元年度の99.6人から4.1人減少しましたが、令和3年度には増加に転じ1日当たり97.3人と1.8人増加しました。</p> <p>透析治療では雲南圏域の中心的役割を担っており、令和3年度島根県人工透析実施状況調査によれば、圏域内の血液透析患者119人のうち76人(63.9%)が、CAPD患者は2人すべてが当院の患者です。外来・入院を含めた延べ患者数は、今年度に入りやや減少傾向にありますが、昨年度は16,737人と過去最高を記録しました。また、透析患者様の通院には困難が伴うことが多いのですが、当院ではそのような患者様のために送迎も行っています。</p> <p>地域医療拠点病院として、MRI、CT撮影および読影による遠隔診療等の診療支援や、学校での検診等に加え、近隣の特別養護老人ホームや有料老人ホームへの訪問診療を始めとして福祉施設との連携も行い、当地域の医療を担っています。</p> <p>このような状況下、近年新型コロナウイルス関連業務が増加しており、新型コロナウイルスワクチンの個別接種実績は令和3年6月から令和4年9月までの16か月で8,168件、自宅療養者の医学管理業務は令和4年1月から9月の間に459人を受け持っています。</p> <p>当院の常勤医師は5名(内科4名、整形外科1名)ですが、圏域内開業医の高齢化は進み、その数も減少してきており、当院の常勤医師の疲弊は年々増えています。現在の診療体制を維持し、地域医療を守っていくためには少なくともあと1名の常勤医師が必要です。よって自治医科大学卒業医師の派遣依頼を行うものです。</p>	Ⅱ	5	5
奥出雲町	町立 奥出雲病院 (98床)	1	1	2	<p>令和3年度末(令和4年3月)現在において常勤医師は8名、うち内科系医師は2名であり、医師に対する負担は相当厳しい状況でありました。さらに、この内科系医師2名が令和4年6月末までに退職されたことにより、内科診療体制の立て直しを迫られたところです。その結果、現在は、島根県から派遣されている1名を含む内科系総合医3名のご尽力によりなんとか維持できている状況です。</p> <p>当院の診療圏域の対象人口は、本町と近隣を含めた1万5千人余りです。令和3年度の状況としては内科外来患者数11,884人(1日平均49.1人)、内科入院患者数は、16,098人(1日平均44.1名)であり、内科系医師には大きな負担を掛けている状態が続いています。このような状況から現在の体制では、これ以上内科入院患者を受入れることは出来ない現状でありました。</p> <p>このような状況から、島根県の深いご理解を得て、令和3年度から内科系常勤医師1名を派遣いただいているところであります。これにより外来や入院の充実はもとより、救急体制や宿日直の回数等も改善でき、他の常勤医師にとっても働きやすい環境が整いつつあります。</p> <p>近年、当院が果たす役割が変わってきたことにより、令和2年11月から病床再編を進め病床数を98床に削減を行い、介護医療院(定員50人)を設置しました。また令和3年4月から訪問看護ステーションを病院で管理運営することとなり、合わせて「在宅診療センター」を設置し医師が訪問診療に出かける体制が整いつつあります。これから当院としては地域包括ケアシステムを構築していくため重要な時期であります。</p> <p>しかしながら、島根県からの派遣を除く当院の内科系総合医2名のうち1名については、今年度末での退職が予定されていることから、来年度の内科診療体制は不透明であると言わざるを得ない状況です。</p> <p>つきましては、来年度の診療体制が不透明な要素を抱えていることから、現在派遣いただいている内科系総合医1名に加えて、もう1名の派遣を要望いたします。</p> <p>町民が安心して暮らせる地域医療に繋がるよう更に努めて参りますので、町や病院の実情をご賢察いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。</p>	Ⅰ	7	7

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
飯南町	町立飯南病院 (48床)	2	2	2	<p>現在、常勤医師は内科医5名であり、うち島根県からの派遣医師は4名（うち義務年限内の医師2名）となっています。同じく本町が運営する飯南町立来島診療所については、平成28年4月から常勤医師が不在となり、当院の内科医がその都度出向いて診療を行っている状況です。その他、飯南町立志々出張診療所、飯南町立谷出張診療所についても同様の診療を行っています。</p> <p>令和3年度の患者のうち内科の患者数は、外来で年間18,457人（診療所を含む）と医科全体の65.0%、入院で年間9,618人と医科全体の91.5%を占めており、内科診療は当院の中心を為す重要な診療科目であることがわかります。また、総合医として1名の医師が外科外来も担っており、患者数はそれぞれ外来で3,618人、入院で894人となっています。その他、内科系総合医により、内視鏡を用いた検査、処置等が832件、超音波診断装置による検査、処置が516件となっており、これらについても欠くことのできない業務となっています。</p> <p>当院は、町内唯一の救急告示病院として、令和3年度には年間856人（うち救急車98人）の時間外患者を受け入れているほか、町内はもとより近隣の雲南市及び美郷町の一部からも患者を受け入れるなど、住民の安心・安全な暮らしにとって欠かせないものとなっています。</p> <p>町内には介護福祉関連施設が8ヶ所と多く、高齢者世帯も多いことから、入院機能の維持に加え、関連機関との連携強化を含めた在宅医療の支援も重要な取り組みの一つとなっています。</p> <p>今後も地域医療拠点病院としての役割を果たすとともに、地域包括ケアシステム推進のため、より一層の取り組みを図っていくためにも、内科系総合医の増員は必要不可欠です。</p> <p>このような中、これまでともに本町の地域医療を担ってこられた町内唯一の開業医が令和元年末をもって閉院されたことにより、医科系では、当院が町内唯一の常勤医を配置する医療機関となり、より一層当院の担う役割が大きくなっています。</p> <p>働き方改革が求められる中、常勤医師の当直業務は、1人あたり月平均6回程度と非常に大きな負担となっている状況もあり、当直業務の負担軽減を含めた働きやすい勤務環境の整備に向けこれまで以上の取り組みが必要となります。</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対応については、外来では診療・検査医療機関に、入院では協力医療機関にそれぞれ指定されており、次なる感染の波が危惧される中で一般医療との両立が課題となっています。さらには、ワクチン接種への対応など業務量の増加を考慮すると、常勤医師の確保が急務であります。</p> <p>当院では、常勤医師7名体制を目標とし、地域住民の求める医療の提供をするため、また、町内唯一の常勤医を置く医科系医療機関を維持するとともに、地域医療の拠点として、次の活動を確保していく必要があることから、内科系総合医の増員派遣を強く要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内唯一の常勤医を置く医科系医療機関としての「かかりつけ医」機能 ・地域の医療機関（へき地診療所）との連携（診療支援・検査協力等） ・在宅療養支援のための訪問診療（訪問看護ステーションとの連携） ・本町が実施する人間ドック、特定健診、ワクチン接種などへの協力及び支援 ・介護福祉施設等の入所者の診療 ・学校医、産業医としての活動 ・初期臨床研修医を含めた医療従事者の地域研修、専門医の育成体制の充実 ・院外研修による地域医療の支援、広い診療能力の維持や新しいスキルの獲得 	I	6	6

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	1	0	1	<p>はじめに)</p> <p>加藤病院を運営する社会医療法人仁寿会は、平成23年8月1日に島根県知事の認定を受け、社会医療法人の主たる所在地人口では全国最少（総務省・厚労省令和3年1月1日現在）の自治体に所在しています。私たちは、地域で包括的かつ統合された地域医療・介護サービス複合事業体として、慢性期多機能医療が枢要な僻地を含む中山間地域から海岸地域において地域包括ケアを展開しています。</p> <p>加藤病院は24時間365日在宅医療に対応する強化型在宅療養支援病院です。病床数81床のうち、地域包括ケア病床55床は主にサブアキュート機能を担いながら、在宅復帰も支援するポストアキュート機能も十分に機能させています。また、26床の在宅復帰強化型の医療療養病床は、長期療養機能に加え、地域包括ケアシステムにおける在宅療養支援機能も担っています。</p> <p>さて、島根県指定の地域医療支援拠点病院の重要な任務であるへき地保健医療対策においては、主要3事業のうち、へき地診療所である美郷町立君谷診療所への管理医師の派遣は、半世紀をゆうに超えました。平成26年度からは川本町の無医地区3地区への巡回診療(モバイルヘルスクリニック)を同主要事業のひとつとして月一回の頻度で開始して以来、令和元年8月からは大田圏域の温泉津町井田地区へ、更に令和4年5月からは、大田市温泉津町福波地区へも開始、大田市では毎週水曜日の午前・午後を診療日としています。また、大田圏域においては、仁寿会として大田市指定管理施設そじき診療所を運営し、医師の配置を1名行っています。これら地域の状況を鑑みると、私たちは、引き続き在宅療養支援とともにへき地保健医療対策等大田・邑智二次医療圏域の課題解決への貢献も継続する必要があると信じています。</p> <p>また、主に介護保険制度を活用した在宅療養復帰・維持支援では、病院併設の在宅超強化型介護老人保健施設「仁寿苑」、医療近接型住宅「穏」、さらにサービス付き高齢者向け住宅「リハビリテーション&ナーシングテラス 和かち逢う家」など多様な住み慣れた地域に「住まう」ための機能として提供しています。これらで療養あるいは生活する、医療を必要とされる方々への医療支援を行うのも加藤病院の重要な使命です。</p> <p>その他の公益に資する活動では、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律（平成元年法律第64号）第4条に基づき策定された島根県計画に基づき、地域の病床機能分化の促進及び質の高い在宅医療提供体制の確保を図るための事業として、邑智郡医師会から受託している地域医療連携コーディネーター配置事業を行いました。さらに、同補助事業のひとつである、しまね型医療提供体制構築事業においても地域歯科医師会との連携等、多分野多部門横断的な活動を展開しています。</p> <p>さて、同様に公益に資する活動でありながらも、公ではなしえない、民間医療機関等への医師派遣を通じた地域医療支援を行っていることも、社会医療法人仁寿会の大きな特色となっています。大田、浜田・江津各圏域の介護老人保健施設や特定施設等への医師派遣は、地域の医療のみならず、介護保険サービス提供体制の維持においても必要不可欠なもの各機関で認識されています。私たちも地域医療・介護提供体制の総合確保を支援する重要な役割として当活動を今後も継続してまいりたいと思います。自治体を超え、さらには大田・邑智二次医療圏にとどまらず、地域の社会資源を有機的かつ統合的に活用することによって、現在の社会医療・介護政策を地域ニーズに適合させつつ推進することは、社会医療法人に与えられた極めて希少かつ他に類をみない有用な機能であり、プライマリヘルスケアの成果としての地域住民の皆様への健康に貢献する所存です。</p> <p>公衆衛生・行政に関する活動として、地域の保育所・学校保健活動、産業保健活動への学校医、産業医の派遣を通じた貢献、島根県警川本署の嘱託医・健康管理医として検案等島根県警の警察活動や警察職員の健康管理にも貢献しています。また、新型コロナウイルス感染症の対応としては、川本町全町民のワクチン接種、近隣町の介護施設群のワクチン接種や感染対策指導からPCR検査体制の構築までを行っています。インフルエンザワクチン接種も職域接種等地域に出向き行っています。</p> <p>教育活動も重要活動として、初期医師臨床研修、医学部地域医療臨床実習、看護学部フィールド実習等様々なレベルにおいて多様な地域医療人育成支援に取り組んでいます。</p>	Ⅱ	12	11

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>1. 巡回診療等による地域住民の医療確保に関すること 平成26年10月より、ヘルスプロモーションカー（小型ドクターカー）「ざいたくん」による川本町の無医地区3地区へ巡回診療を行っています。 （1地区は患者受診実績がなく巡回診療休止中）</p> <p>2. へき地診療所等への医師及び看護師等の派遣（へき地診療所の医師等の休暇時等における代替医師等の派遣（継続的な医師派遣も含む）を含む。）並びに技術指導、援助に関すること 半世紀以上にわたり、美郷町立君谷診療所への管理医師、看護師、事務職員の派遣を通じて無医地区での診療支援を行なっています。</p> <p>3. 派遣医師等の確保に関すること 社会医療法人仁寿会の医師は、本年10月現在常勤7名（男性6名、女性1名）、非常勤4名（男性医師2名は3日/週、1名は4日/週、女性医師1名は3日/週の勤務です。） 加藤病院では外来診療、地域包括ケア病床及び医療療養病床診療、居宅における訪問診療、無医地区への巡回診療、また、介護老人保健施設仁寿苑の診療、診療所2カ所の外来診療を行っています。更に大田市立祖式診療所の指定管理を法人として受託しています。大田市立病院、石東病院への専門外来支援、民間老人保健施設2カ所、民間特別養護老人保健施設1カ所の代診診療への医師派遣、荘内診療所配置医師としての診療も行っています。また、JAの健診での医師応援体制を求められており、常勤医師の高齢化、また、働き方改革を進める上で、これ以上の派遣機能を担うには、医師の確保が喫緊の課題です。</p> <p>4. 地域の医療従事者に対する研修及び研究施設の提供に関すること 地域医療実習初期臨床研修医は新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響により令和3年度は3名のみ受け入れとなりました。これからの地域において、必要な総合医を育成するために多職種連携によるチーム医療を学ぶプログラムの提供や、法人内に仁寿会メディカルスタッフスキルアップセンターを新たに設置しています。ここでは、法人内外の大田圏域の医療介護関連専門職が、従事する地域に居ながら専門的な研修を受ける場を提供し、地域医療介護人の成長を支援しています。地域において、生涯にわたり学び働き続ける環境・体制構築に積極的に取り組んでいます。 また、東京都東邦大学医学生、島根大学医学生、広島国際大学薬学生・管理栄養学生、島根県立大学看護学生・管理栄養学生との医薬看栄養専門職連携学生教育プログラムによる4専門職学生合同臨床実習や、リハビリテーション専門学校学生など将来の地域医療人の育成支援として実習指導など教育活動も行っています。今後は、広島国際大学IPE（専門職連携教育）プログラムと連携予定（新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響のため延期）です。 また、島根大学医学部および島根県立大学看護学科、また企業との共同による認知機能に関する研究や島根県ブランド品の開発あるいは販路拡大につながるなどの研究にも積極的に参加し、国内はもとより海外においても研究成果を発表しています。</p>			

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>5. 遠隔医療等の各種診療支援に関すること 遠隔医療を活用したDoctor to Doctorの診療支援では、巡回診療の現場やへき地診療所あるいは法人運営の診療所と加藤病院との間で情報端末を用い行うことが可能です。また、Doctor to Patient with Nurse やwith Therapistなど看護サービスやリハビリテーションサービスの現場活動を支援する活動も適宜行っています。これらは、25年度から開始された島根県在宅医療介護連携推進事業の採択を受け、多職種連携による包括ケアシステムの構築を27年度まで行ってきた成果でもあります。28年度からは、邑智郡歯科医師会の協力を得て、邑智郡食事栄養支援協議会を発足し、また、29年度からは、しまね型医療提体制構築事業を県より受託し、圏域の医療介護提供体制の課題抽出と遠隔医療を活用した解決に向け取り組んでいます。さらに平成30年度から医療介護総合確保基金による病床機能分化に向けた医療連携推進コーディネーター事業を邑智郡医師会より受託しています。令和4年度からは新たに美郷町とオンライン診療実装事業として「オンライン診療美郷町（中山間地域）モデル」事業を開始します。地域の公民館などを活用したDoctor to Patient with Nurse 等による診療支援を行う予定です。</p> <p>6. 地域の医療機関との連携による「ブロック制（拠点となる病院と近隣の診療所等では病院医師が専門診療を行い、学会や研修会出席時等における代診を相互に行う医師の相互交流システム）」等の推進に関すること 診療所の医師が学会等により不在の場合、在宅等での看取りに対応するための患者情報を共有し、在宅看取りを行うことができるよう体制を構築しています。また、様々な事由による代診医派遣も可能です。</p> <p>7. その他市町村が地域における医療確保のために実施する事業に対する協力に関すること 川本町、美郷町、大田市におけるへき地保健医療対策に加え、新型コロナウイルス感染症感染対策（ワクチン接種事業含む）等保健医療に関する各種会議への医師派遣、介護保険認定審査会、地域ケア会議等への派遣等を継続して実施しています。県立・町立学校の学校保健医として町内の保育園、小学校、中学校、県立中央高校の園児・児童・生徒の健康管理を行い、また、産業保健医として県立高校、地元企業、島根県警川本警察署を含め郡内7つの事業所の労働者の安全衛生管理を行い、地域衛生水準の向上に寄与するとともに、警察嘱託医として管轄内の遺体検案業務等警察行政への医療支援にも貢献しております。 産業医）島根県警川本署、島根県立中央高校、川本町役場、川本福祉会、社会福祉法人吾郷会大和サイト（ハートランド双葉園ほか）、JA島根おおち、株）ワイテック、邑智郡事務組合（R4年度より）</p> <p>以上のように多岐にわたって社会の公器としての公益的な診療・健康管理・社会活動を行う中で公益的な活動へのさらなる貢献要請が、近年特に増加しているという現状があります。慢性的な医師不足という状況に変わりはありません。</p>			

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>非常勤医師の現状) — 派遣受け入れ医師数昨年度比減少</p> <p>加藤病院は、島根大学医学部付属病院から多くの診療科にわたる非常勤医師を臨床指導医として派遣していただいております。地域において必要な専門性の高い医療サービスを提供することできる環境となっています。しかし、医療勤務環境改善、医師の働き方改革の推進等ご存知のように、大学からの医師の派遣においては、さらなる困難な状況が依然として続き、今後はさらに悪化することも懸念されています。その結果、加藤病院常勤医師の上記医療に関する活動を継続するためには、大学から派遣していただいている現在以上の応援体制の継続に加え、県からの常勤医師の派遣が不可欠であると判断しています。</p> <p>8. 医師派遣の要望</p> <p>島根県のホームページには、地域医療拠点病院の目的として「へき地診療所への代診医等の派遣、医療機関従事者に対する研修、遠隔診療支援等の診療支援事業が実施可能な病院を、概ね二次医療圏単位で地域医療拠点病院として指定し、地域医療支援機構の指導・調整のもとに各種事業を行い、地域における住民の医療を確保することを目的とする。」ことが述べられています。また、地域医療拠点病院の事業内容としては、①巡回診療による地域医療の確保②診療所等への医療従事者の派遣（代診医等派遣含む）並びに技術的指導・援助③派遣医師等の確保④医療従事者に対する研修及び研究施設の提供⑤遠隔医療等の各種診療支援⑥地域の医療機関との連携による地域医療支援ブロック制等の推進⑦その他、市町村が行う地域医療確保への協力と明記されています。この指定事業目的の事業項目について、加藤病院は全て対応しています。</p> <p>このことを踏まえ、公益性の高い医療サービスについては、今まで公立病院が中心的でありましたが、私たちは、地域で必要な医療の提供を担う島根県が地域医療拠点病院として指定している民間医療機関、また、公益性の高い医療法人として認定した社会医療法人が地域の医療計画へ参画、公益性の高い医療を安定・継続的に提供し、良質かつ適切な医療を提供する体制を図ることが必要と考え、現に十二分にその機能を発揮しています。従いまして、私たちは、地域医療拠点病院として、持続可能性を担保しつつ地域における役割を果たすために、県からの医師派遣を強く要望いたします。公益性の高い法人として、地域の不採算な医療事業にも積極的に取り組んでいる社会の公器たる社会医療法人への医師派遣をぜひともお願い申し上げます。このことを通じ、医療分野における官民の人材交流が本格化することを強く願っております。多分野多部門横断的な活動がこの島根の地域包括ケアシステムの継続的な発展には必要であり、その鍵となるのが官民の人材交流です。有為な人材育成に資する方策としてぜひ実現していただきたく存じます。</p> <p>以上の理由により、医師の派遣を是非よろしくお願いいたします。</p>			

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
邑南町	公立邑智病院 (98床)	2	2	2	<p>公立邑智病院は邑智郡内唯一の救急告示急性期病院として、邑智郡に不可欠の社会インフラとなっています。高度医療、救命救急医療などを除く、急性期医療の8割を地域内完結することを目標に、各診療科が「相互支援」「相互指導」のもと、できるだけ専門分野にとらわれない診療を行っております。また、高度急性期病院から診療所・在宅までを繋ぐ中間的な医療機関として、邑智郡地域連携推進協議会の事務局で郡内82機関の会議を主催する等、病病連携や病診連携、介護福祉施設との連携強化を図っております。</p> <p>当院の内科は平成26年4月から総合診療科と広告し、プライマリケアから上部・下部消化管の内視鏡検査をはじめ、透析管理など幅広い診療や保健予防活動の分野においても重要な位置づけとなっており、年々需要が増しているところです。令和3年度からは、外科医が1名減ったことに伴い、外科外来を総合診療科医師が週1回担当するなど、小外科診療も守備範囲となっております。また、今年度から泌尿器科の常勤医も不在となり、透析管理業務を週4日程度総合診療科医師で担当しております。</p> <p>診療所の支援については、矢上診療所の宮本医師が、令和2年度から当院で週1回内視鏡検査を行っており、その代診として当院医師が矢上診療所へ診療に出かけています。また、宮本医師が不在時（休暇、出張）にもスポット派遣を行うなど、病診連携を強化しております。これは内科系総合医が5名常勤でいることにより成しえていることでもあります。</p> <p>教育体制としては、98床の急性期及び地域包括ケア病棟を備えた、地域で唯一の急性期救急病院であることから、幅広い疾患を経験することができ、総合診療医が活躍できる地域であると考えます。更に、内視鏡業務においては、地域で開業されている三上医師の支援・指導も受けており、専門医の技術を学ぶことができます。</p> <p>更に今年度からは、常勤医の助け合いにより、月2回程度の院外研修（内視鏡・救命救急）にも派遣することができています。</p> <p>島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院等の島根県内の基幹病院及び東京医科歯科大学医学部附属病院の総合診療専門プログラム、内科専門プログラムへの協力施設であり、都市部の大学からも期待される教育施設としての負託にこたえるべく努力する所存であります。</p> <p>現在の運営状況として、許可病床98床の令和3年度病床稼働率は85.8%、うち平成26年10月から届け出ている地域包括ケア病床41床の病床稼働率は94.0%と高稼働となりました。</p> <p>【令和3年度データ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合診療科外来患者数 13,674人 ・救急受け入れ患者数 2,470人（うち救急車634人） ・内視鏡検査 1,231件 （内ポリープ切除術件数 99件、ERCP 15件、ESD 8件、PTGBD 0件） <p>以上のことから、自治体病院として地域住民の負託に応える医療機能を永続するために、総合診療外来2診、外科外来、入院管理、内視鏡検査、透析管理、2次救急、当直、代診派遣の体制を継続するには、最低5名の内科系総合医が不可欠であると考えており、うち2名の医師派遣を要望します。</p>	I	9	9

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)											
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4										
		江津市	島根県済生会 江津総合病院 (280床)	3			0	3	<p>平成18年、現在地に新病院を移転開院した当初26名いた常勤医師も現在は13名と激減している。そのうち4名は65歳以上の医師であり、体力的にも厳しい中ではあるが、強い使命感で診療をしていただいている状況である。</p> <p>当院は、江津市内はもとより、大田市の西部並びに邑智郡の一部の住民の利用があり、地域の住民が安心して暮らすことができるよう救急医療も含めた医療の提供に努めている。特に、高齢者は慢性期疾患を抱え、内科系の医療の充実が必要不可欠である。</p> <p>内科医師については、令和3年5月に1名確保することができたが、現在は循環器科医師の協力を得て3名で内科外来診療及び一般病棟の対応を行っている状況である。</p> <p>また、療養病棟(100床)を担当していた内科系医師1名が令和3年12月に退職した後、補充は出来ておらず、現在常勤医11名で療養病棟の対応をしている。そのため、常勤医師の負担が増加している状況である。</p> <p>今後、地域の人口減、高齢化がより深刻となる中で、在宅支援の強化など地域に根差した病院として医療を提供していくため、内科系総合医の派遣をお願いしたい。</p> <p>(令和4年4月～9月の内科実績)</p> <table border="0"> <tr> <td>外来</td> <td>延患者数</td> <td>3,597名</td> <td>外来収入</td> <td>44,949千円</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>延患者数</td> <td>2,282名</td> <td>入院収入</td> <td>67,599千円</td> </tr> </table>	外来	延患者数	3,597名	外来収入	44,949千円	入院	延患者数	2,282名	入院収入
外来	延患者数	3,597名	外来収入	44,949千円														
入院	延患者数	2,282名	入院収入	67,599千円														
江津市	西部島根医療 福祉センター (112床)	1	0	1	<p>1) センターの概要</p> <p>当医療機関は島根県西部地域の江津市に位置し、病床数112床、外来診療科14科を標榜し島根県の西部圏域の地域医療を支える役割を担っている。</p> <p>医療機関の主な基礎データは以下となっている。</p> <p>○標榜科 整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、小児科、内科、循環器内科 消化器内科、神経内科、糖尿病内科、外科、小児外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、 歯科口腔外科</p> <p>○患者数(令和3年度実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来1日平均患者数 101.9人(再掲 内科系1日平均外来患者数 19人) ・入院1日平均患者数 97人 <p>○医師数(令和4年10月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤医師 6名(再掲 内科系0名) ・非常勤医師 常勤換算数3.1名(再掲 内科系0.86名) <p>○医師派遣事業(令和3年度実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児健診等 6市町 年間46回実施 	Ⅱ	5	5										

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
江津市	西部島根医療 福祉センター (112床)	前ページからの続き			<p>2) 現在の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●常勤内科医不在の問題 患者数1日平均97人の入院部門については、医療機関であると同時に障害児者施設としての機能も有しているため、呼吸器管理や吸引吸入が必要な感染リスクの高い方など「重度重複障害」を持つ超重症児者・準超重症児者が多く、感染症や呼吸器疾患の対応を現在小児科・整形外科医師が行っている。 また、高齢化による内科系疾患や悪性腫瘍のリスクが年々増してきているが、平成28年8月に常勤内科医の退職後、内科系の常勤医師の不在が続いているため、疾患によっては他医療機関へ依頼せざるを得ない場合もある。 外来部門では、非常勤医師により外来診療を行っているが、曜日によっては医師不在のため、必要な医療が提供できていない状況にある。市町依頼の健診や予防接種も出来る限り対応しているが、通常の診療との兼務であり、医師個々の負担は大きい。 ●医師の受け持ち患者数について 入院診療は、常勤内科系医師不在の状況の中、派遣常勤小児科医1名（ローテーション）と期限付の常勤小児科医1名の2名で外来診察や健診事業を行いながら重心児者の入院患者97名を受け持ち対応している。 ●小児科の予約待ちの状況 小児科は発達障害の診療を主に行っており、学校や関係機関からの紹介も多く、予約が5ヶ月待ちの状況となっている。3名の常勤小児科医のうち2名は多数の入院患者の対応しており、状況の改善のため、他医療機関への患者紹介を行うとともに、近年は市町健診業務の見直しを行い診療日を増やすなどにより、常勤医と非常勤医で診療の対応をしているが、問題の解消には至っていない。新患の件数も継続して年間130名を超えており、近年ますます増えている状況である。 ●医師派遣事業 乳児健診を始めとする医師派遣事業を島根県西部圏域で実施しており、乳幼児の小児神経疾患及び整形外科疾患の早期発見を行っている。今年度から浜田市からの要望で同市への医師派遣を開始したが小児科の予約待ちの状況を緩和するため、当センターが実施する医師派遣事業の見直しが必要な状況となっている。 ●その他 内科系医師不在により敷地内の併設障害者支援施設の嘱託医の業務、当直業務等を行っており、常勤医個々の負担はさらに高まっている。 また、昨年9月末に常勤の整形外科医師1名が退職したことにより、当直業務を常勤医師4名と非常勤医師で担当していた体制が常勤医師3名と非常勤医師で対応しており常勤医師にかかる負担は相当なものである。 そのほか、令和4年度末には期限付医師1名の医師派遣の状況が不透明であり、場合によっては常勤医師1名で入院患者を対応せざるを得ない可能性もある。 <p>入所利用者の約9割が成人の障害者であり、循環器、消化器、運動器、てんかん、痙縮等多岐に渡る診療が必要であるため、内科医、特に総合診療医が必要である。 今回派遣をいただいた場合、地域における外来診療や入院の重症児者への総合的な診療、併設施設の嘱託医、当直業務に対応していただくことにより、小児科の予約待ちの問題の緩和、安定した地域医療の提供、当センターの果たすべき役割である障害児者への充実した専門医療の提供、そして乳児健診を始めとする医師派遣事業の充実した提供が可能となる。</p>			

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																					
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4																				
浜田市	国民健康保険 診療所連合体 (波佐・あさひ・ 弥栄・大麻)	1	1	1	<p>令和4年度は初めて義務年限内自治医科大学卒業医師を派遣していただいたことについて、厚くお礼申し上げます。</p> <p>浜田市国民健康保険診療所連合体は、中山間地域の医療を確保するため、4つの診療所（大麻診療所、波佐診療所、あさひ診療所、弥栄診療所）を運営しています。</p> <p>昨年度までは5名の医師（常勤2名、任期付職員2名、県派遣1名）で診療にあたっておりましたが、定年退職による常勤からパートへの変更に伴う勤務時間減少及び任期付き医師の急な退職により現在4名（常勤1名、任期付職員1名、県派遣1名、パート1名）となり、各所へ代診医派遣をお願いしていますが、現状は昨年と比較して、休診日や休診時間を作らなければならない状況であり、地域住民からも地域医療に対する憂慮の声が上がっているところです。また、研修医への指導助言も行うなど医師の負担も増加しています。</p> <p>中山間地域の医療の確保はもちろんのこと、当市の保健・医療・福祉の課題解消に向けた各種行政施策への参画や、将来の地域医療を担う人材育成など、この連合体の果たすべき役割は大変重要であります。働き方改革が進む中、医師への負担増が懸念され、早期の医師確保が喫緊の課題となっております。</p> <p>そのことから、今年度、新たな人材を育成していくために、宿舍の整備など受入体制の強化をしたところであり、また、総合診療医育成の見直しを図っているところです。</p> <p>医師の派遣していただくことで、全国的にも先進的な取り組みであるグループ診療の良さを生かすことが出来ればさらなる人材育成にもつながり、派遣いただいた医師の技術向上にも寄与できるものと考えますので、派遣継続について強く要望いたします。</p> <p><施設別一日当たりの診療件数及び診療日数（令和3年度）></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>診療件数(延べ) ①</th> <th>診療件数 ①÷②</th> <th>診療日数②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国民健康保険大麻診療所</td> <td>638件</td> <td>6.7件</td> <td>95日</td> </tr> <tr> <td>国民健康保険波佐診療所(小国を含む)</td> <td>3,357件</td> <td>12.7件</td> <td>264日</td> </tr> <tr> <td>国民健康保険あさひ診療所</td> <td>5,296件</td> <td>19.9件</td> <td>266日</td> </tr> <tr> <td>国民健康保険弥栄診療所</td> <td>7,662件</td> <td>28.8件</td> <td>266日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※診療日数は半日診療も1日としてカウントしている</p>	施設名	診療件数(延べ) ①	診療件数 ①÷②	診療日数②	国民健康保険大麻診療所	638件	6.7件	95日	国民健康保険波佐診療所(小国を含む)	3,357件	12.7件	264日	国民健康保険あさひ診療所	5,296件	19.9件	266日	国民健康保険弥栄診療所	7,662件	28.8件	266日	I	1	1
施設名	診療件数(延べ) ①	診療件数 ①÷②	診療日数②																									
国民健康保険大麻診療所	638件	6.7件	95日																									
国民健康保険波佐診療所(小国を含む)	3,357件	12.7件	264日																									
国民健康保険あさひ診療所	5,296件	19.9件	266日																									
国民健康保険弥栄診療所	7,662件	28.8件	266日																									

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
益田市	益田地域医療センター 医師会病院 (253床)	3	0	3	<p>益田地域医療センター医師会病院は、益田圏域の急性期から回復期、慢性期、在宅医療支援までの幅広い機能を有し、地域医療拠点病院として、長年、益田市医師会員の協力も得ながら、圏域内の無医地区への巡回診療（令和3年度実績 計214日）を継続し、現在、昨年9月より小野（滑）地区を加え計6カ所の無医地区への巡回診療を実施しています。また、応援診療として、津和野共存病院へ週一回の整形外科医の派遣（令和3年度実績 計49日）や、六日市病院への宿直応援（令和3年度実績 計12日）、国保知夫診療所への宿日直代診の派遣（令和3年度実績 計40日）等を行っており、その他、平成17年「益田市国民健康保険診療施設美都診療所」開設と同時に、同診療所の指定管理を法人として受託し、以後、地域医療を維持するため不可欠な機能を継続して担っています。</p> <p>また、当院は医師会立病院の特性を生かし、地域のかかりつけ医との強固な連携の元、地域医療支援病院（令和3年度実績 紹介率99.1%・逆紹介率102.9%）として、また、圏域独自の地域包括ケアシステム推進においても在宅医療後方支援病院（登録患者数80名/令和4年9月現在）として、圏域の医療提供体制に重要かつ不可欠な役割を果たしていると自負しています。</p> <p>一方で、当院の医師数は最盛期（平成24年）の19名より年々減少し、現在12名の常勤医でこの病院機能を支えています。常勤医の高齢化も顕著であり平均年齢は53.7歳、12名のうち5名は60歳を超え、宿日直ができる医師も7名しかおらず、非常勤医師や島根大学からの派遣に頼らざるを得ない状況です。このような状況下において、独自の医師確保対策として平成30年より医師会員の協力を得て開始したへき地・離島で活躍を目指す若手医師の育成プロジェクト「親父の背中プログラム」によって、辛うじて毎年1～2名の医師の確保はできていますが、勤務年数を限定した循環型プログラムのため非常に不安定な状況であることに変わりありません。</p> <p>現在、令和4年11月末で介護医療院の医師1名、令和4年度末には親父の背中プログラムの医師1名の退職が決まっています。島根大学医局をはじめとした関連大学への要請をはじめとして、人材コンサルティング会社の活用など不断の努力を重ねておりますが、現時点で確保につながっていないのが実情であり、このまま医師確保が叶わなければこの圏域の医療崩壊にもつながりかねません。</p> <p>また、当法人が指定管理を受託する国保美都診療所の勤務医の年齢も67歳を迎え、益田市匹見町の国保匹見道川診療所・澄川診療所の運営を行う匹見町唯一の開業医も70歳を超えており、当院も含めた支援体制を検討すべき時期に差し掛かっています。</p> <p>今後も地域の医療提供体制を堅持するため、当院への医師派遣についてご検討賜りますよう切にお願い申し上げます。</p> <p>令和3年度 外来患者延べ数 23,441人 （うち内科 1,724人） 入院患者延べ数 85,944人 （うち一般病棟および地域包括ケア病棟の内科入院患者延べ数 24,117人） 内視鏡検査件数（上部262件、下部143件）</p>	Ⅱ	11	12

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
津和野町	津和野 共存病院 (49床)	2	2	3	<p>公立医療機関で地域医療拠点病院に認可された津和野共存病院は、町内で唯一の入院施設を有する病院であり、地域包括ケア病床36床と一般病床13床の合計49床を有しています。</p> <p>在宅医療（介護施設も含む）の受け皿としての急性期医療（在宅療養者の急増への対応）や、機能回復および維持のための亜急性期～慢性期医療・リハビリテーション機能を携えています。</p> <p>また、同一施設内に介護老人保健施設、津和野町の機関（医療対策課、地域包括支援センター）を併設し、地域の医療・介護を支える拠点となっています。</p> <p>医師不足の為、平成18年12月に救急告示病院を取り下げましたが、受け入れ可能な救急患者（5人/日程度）については現在でも対応しています。</p> <p>津和野共存病院は、隣県を含めた中山間地域にとっても必要とされており、外来患者約80人/日、入院患者約40人/日の診療、日中の救急患者の受け入れ、通院が困難な在宅療養患者（30人/月）及び特別養護老人ホーム（100人/月）への訪問診療、無医地区への巡回診療（24人/月）を行い、訪問看護（140人/月）が24時間体制で在宅療養を支えています、訪問リハビリテーション（30人/月）では自宅での生活様式に合わせてストレッチ・転倒防止体操・バランストレーニング等を実施しています。又、町内のほか益田市、吉賀町の事業所依頼も含め健康診断(年間1600件)、予防接種、町の健康相談事業や保健事業への協力などを行い、地域包括ケアの推進に取り組んでいます。</p> <p>また、日原診療所は、主に津和野町及び隣接する吉賀町、益田市の住民に対応し、内科常勤医師1名と非常勤医師4名（主に津和野共存病院の常勤医師派遣）による5日/週外来診療（患者数33名/日）訪問診療（41名/登録）を実施しています。</p> <p>平成30年10月以降、日原地域の開業医が閉院し町民の不安が増す中、医療を守り町民が安心して生活できる環境を整えるために、津和野町施設を診療所として増改築し令和4年3月に移転、新たに簡易検査機器、レントゲン装置を設置し、地域の医療と住民の健康維持を担う重要な医療機関となっています。</p> <p>現在6.5名（0.5名は老健兼務のため）の常勤医師体制ですが、1名は65歳を越え入院・外来等一般診療を行わず専ら検査と読影を担う放射線科医師です。1名は63歳で臨床経験に乏しく外来・入院対応は困難で、老健を兼務し健診や予防接種、夜間外来のない週3回の当直を行っています。1名は体調を崩し回復後ですが、継続治療が必要であり外来1日、健診1日、島根県立中央病院応援1日の週3日勤務としています。</p> <p>実質的に外来・入院・土日休日直は若手医師の4人で対応する状況にありますが、そのうち3人は幼い子供を育てていることもあり、過度の負担がかからないように益田赤十字病院や島根大学医学部付属病院に非常勤医師の応援を依頼し、なんとか診療体制を維持しています。しかしながら、令和5年3月末には若手医師1名の退職が決まっております。</p> <p>津和野共存病院は地域医療拠点病院の指定を令和4年3月に認定され、町内無医地区への対応等も令和4年7月より月2回の巡回診療（患者12人/日）を実施し、津和野町の医療をなんとか守るとともに、県内総合診療医の育成の一助となるように、研修医の地域医療実習や学生の実習を受け入れており、これらを継続し併せて町内無医地区への対応等を行うためには、少なくとも現在の若手医師4人の体制を維持していくことが必須であります。来年度1名の減少とならないように当院及び津和野町が大学にお願いに伺い、また、地域枠推薦医師や僅かでも望みのある若手医師を中心に働きかけを行っておりますが、来年度には叶わないのが実情であります。</p> <p>当院の存在・機能は、この圏域にとってなくてはならない医療機関となっており、本年度末での退職が決まっている1名の欠員を補い、地域医療を継続するために、現在派遣をいただいている2名の医師に加えて、もう1名の若手医師派遣を強く要望する次第であります。</p>	I	7	7

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
津和野町	日原診療所	1	0	-	-	I	1	1
吉賀町	社会医療法人 石州会 六日市病院 (99床)	1	0	1	<p>当院は、島根県・山口県・広島県の3本の県境が交わっている地域にある病院で、入院・外来ともに3県の患者が利用されています。また、鹿足郡唯一、24時間体制で救急医療を担っており、令和3年度外来受け入れ件数は27,015件でした。</p> <p>3年前に内科常勤医師2名の退職後より該当医師の採用はなく、他常勤医師6名にてカバーしている。また、現在常勤医師の大半が高齢であり、当直業務ができる医師に限られ非常勤医師の協力を得ながら現状維持をしておりますが、当直を行う常勤医師の負担が増大しております。医師確保が困難で、休日及び時間外の診療に支障をきたす可能性があります。</p> <p>地域から求められている「最低限の医療提供」を維持するためには、常勤医師の確保が必須であるため、最低1名の医師派遣を要望致します。</p>	II	7	5
隠岐の島町	隠岐広域連合立 隠岐病院 (115床)	4	4	4	<p>当院は、隠岐医療圏の地域医療拠点病院として、限られたマンパワーの中で、島でできる医療の提供に向けて日々取り組んでいます。離島という厳しい地理的条件、超高齢化の進行する中、地域医療における当院の果たす役割は益々高まっており、中でも自治医科大学出身の県派遣医師がいなければ離島医療を守ることができない状況にあります。</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、総合診療科においても患者数が減少しましたが、令和3年度は以前より年間千名以上患者数が増え、令和4年度も前年度以上の外来患者数130名/日超、入院患者数は38名/日超となっており、特に外来患者数は同規模病院と比較すると非常に多い状況(全国平均の約2倍)にあります。そのような状況でも、常勤医不在診療科(耳鼻科、泌尿器科、皮膚科)のプライマリ・ケアとして、専門医の診療を必要とする前の初診も受けるとともに、町立診療所との相互診療や医療提供が必要な在宅医療も推進するなど、「この島に住む安心の医療」を提供できるように常に先頭に立って対応しています。</p> <p>加えて、同様に新型コロナの影響があるものの総合診療科を中心に救急外来対応(令和3年度()内は前年度:救急車受入件数506件(477)、休日及び時間外患者数4,122人(3,968))、内視鏡等の検査(令和3年度実績:上部1,487件(1,488)、下部414件(498))、透析、リハビリなど様々な業務も兼務し、また宿日直(1人あたり月4回程度)や診療科の待機および在宅診療のコールにも対応しなければなりません。</p> <p>更に、他の医療機関も同様ですが、当院においても新型コロナについては、総合診療科で発熱外来や感染確認後の入院等に対応するなど、限られた人数で通常の診療で多忙を極めている上に、常に緊張感がある中で診療に携わっている中、要となる医師が4月に異動となり、医療面、精神面も含めて非常に厳しい環境になっています。</p> <p>離島での医療は身体的、精神的負担は大きく、2024年度に向けて医師の働き方改革に対応するための取組が必須であり、診療看護師1名体制ですが診療部に診療支援室を設置し、在宅医療や入院患者などに医師の包括的指示の下に対応し、特定看護師の養成、医療クラークの増員などタスクシフトの強化を図っており、今後も引き続き勤務医負担軽減に取り組むとともに、平成29年に設置した島の医療人育成センターを中心に専攻医の積極的受入れ、独自の医師確保対策等を強化しておりますが、離島という特殊性も鑑み、どうしてもお願いする医師数が必要です。</p>	I	20	19

市町村	医療機関名	R 4		R 5	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R3	R4
		西ノ島町	隠岐広域連合立 島前病院 (44床)	1			1	1
知夫村	国民健康保険 知夫村診療所	1	1	1	<p>当診療所は、長い期間にわたり地域医療支援会議により自治医科大学卒業医師の派遣を受け、診療機能を維持してきました。</p> <p>常勤医師獲得のため専門誌へ医師募集の広告を掲載する等 懸命に取り組んで おりますが、現在のところメドがたっておりません。</p> <p>当診療所は、島唯一・村唯一の医療機関であり、無医村となることを避けるため、自治医科大学卒業医師の派遣を要望致します。</p> <p>令和3年度 患者数 4,221件(内急患数132件) 1日平均 22件</p>	I	1	1
海士町	国民健康保険 海士診療所	-	-	1	<p>海士町人口おおよそ2,300名。高齢化率39.6%(R4.9.30)。自然動態は、毎年減少していますが、近年、若年層のIターンを中心に人口増加しています。</p> <p>海士診療所は、島に一つの医療機関として地域医療を担っており、医師は、現在67歳と65歳の常勤2名で島の医療を支えています。</p> <p>令和3年度の1日平均患者数83名、時間外や休日、深夜の対応も行い、外来診療、往診、訪問診療、予防接種、健診、特別養護老人ホームへの訪問診療、学校医、町の保健予防事業や介護福祉施設との連携も行っています。また、新型コロナウイルスワクチン接種やコロナウイルス陽性患者対応などの業務も行い負担が増え逼迫している状況です。</p> <p>医師確保については、2018年から独自で取り組んでおりますが未だ確保につなげず困難な状況であります。よって、島の医療提供体制を維持継続するため医師派遣を要望します。</p>	I	2	2
合 計		29	14	31				
病院		26	12	28				
診療所		3	2	3				